

報第 5 号

くま川下り株式会社の経営状況について

くま川下り株式会社の経営の状況を説明する書類（第 5 6 期決算報告書及び第 5 7 期事業計画書）を別紙のとおり報告する。

平成 3 0 年 6 月 4 日提出

人吉市長 松岡 隼人

第 5 6 期 決算報告書
第 5 7 期 事業計画書

く ま 川 下 り 株 式 会 社

人吉市下新町 3 3 3 - 1
代表取締役 中村 良幸

第 5 6 期

決 算 報 告 書

自 平成 2 9 年 3 月 1 日
至 平成 3 0 年 2 月 2 8 日

第56期 事業報告書

自 平成29年3月 1日
至 平成30年2月28日

事業概況

当社第56期の決算を行いましたので、事業の概況と経過をご報告申し上げます。

平成28年4月に発生しました熊本地震による風評被害等の影響で、前期は、大きく実績を落とす結果となりましたが、当期は、各復興支援、JR九州のキャンペーン等の効果もあり、教育旅行等一部を除き回復の手ごたえを感じた1年でありました。結果として、当期の総事業収入は、くまがわ荘の閉館により売上が減少した関係で122,355千円(対前年71.3%)と減収しておりますが、経費圧縮に努め経常利益1,138千円を計上することができました。平成22年度から7期連続の赤字、さらに平成27年度から債務超過の状態にありますが、平成21年度以来8年ぶりに黒字に転換することができました。関係各位のご支援とご協力に心から感謝を申し上げます。

遊覧船事業

当期は、目標をくま川下り乗船客(ミドルコース)33,500人、ショートコース1,100人とし、船頭14名、稼働船舶7隻での運航をいたしました。平成27年度から運航を行っているミドルコースを営業の柱とし、短い乗船時間でもおもてなしの心をもって、安全な場所での櫓漕ぎ体験や、船頭との会話を楽しんでもらうと共に下船後もシャトルバスで安全にお送りし心に残る船旅になるよう努めました。

熊本地震の影響で落ち込んだ前期と比較して、月別で見ましても悪天候のため8月、9月は振るわなかったものの、それ以外の月では前年を上回り推移しました。船賃収入としては、75,561千円(対前年134.6%)となり、前期より19,435千円の増収となっております。

コース	客 数		増減 (率)	
	H29	H28		
ミドルコース	30,778	22,744	8,034	135.3%
ショートコース	831	1,074	-243	77.4%
梅花の渡し	9	76	-67	11.8%
計	31,618	23,894	7,724	132.3%

レストラン「くまがわマルシェ」につきましては、くま川下り＋食事のセット券の販売や乗船客への利用、雑誌掲載、新聞広告掲載で利用客の増加に努めましたが、8,148人(対前年79.5%)の利用で、売上10,847千円(対前年77.3%)となりました。レストラン部門のくまがわマルシェにつきましても、年々売上が減少していることと調理場の後継者不在等の課題もあり、5月中旬より休業し、今後は自営以外の店舗利用料獲得の方向で考えております。

宿泊事業

ご承知の通り、経営の健全化を図るため、平成11年から人吉市より業務の管理運営を受託していました宿泊部門の国民宿舎くまがわ荘は平成29年3月末をもって閉館しております。

閉館までの実績としましては、宿泊人数174人(対前年3.3%)、休憩宴会人数1,158人(対前年4.6%)の利用となり、総売上3,180千円(対前年4.7%)となりました。

その他事業

売店物品販売につきましては、会社全体の売上で5,827千円(対前年78.8%)という結果になりましたが、これは、くまがわ荘閉館に伴う減収があったためで、くま川下り売店につきましては来場者の増加に伴い売上高5,720千円(対前年116.0%)と増加しております。

ラフティングにつきましては、集客目標を1,900人と定め、活動を行いました。実績といたしましては利用者1,769人(対前年124.8%)、

収入で9,768千円(対前年121.9%)と昨年より実績は上がったものの、当社が永年取り組んできた教育旅行のラフティング体験を熊本地震前の水準まで戻すにはまだまだ時間と集客努力が必要と感じております。

また、請負事業につきましては、今期も前期並みの受注を受けました。結果的に、その他事業部門で総収入として当期31,992千円(対前年98.8%)となりました。

貸借対照表

平成30年2月28日現在

くま川下り株式会社

資 産 の 部		負 債 及 び 純 資 産 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
	円		円
I 【流 動 資 産】	【 9,256,205 】	I 【流 動 負 債】	【 22,230,694 】
現 金	389,715	買 掛 金	398,225
当 座 預 金	96,525	短 期 借 入 金	5,000,000
普 通 預 金	2,693,594	未 払 金	8,637,564
ク ー ポ ン	1,048,632	未 払 費 用	703,097
棚 卸 資 産	2,212,446	前 受 金	34,080
前 払 費 用	2,059,702	預 り 金	1,707,928
未 収 入 金	521,533	未 払 消 費 税	5,411,300
仮 払 金	234,058	未 払 法 人 税 等	338,500
II 【固 定 資 産】	【 126,692,126 】	II 【固 定 負 債】	【 130,181,000 】
1 (有形固定資産)	(116,910,693)	長 期 借 入 金	130,181,000
建 物	24,484,629	負 債 合 計	152,411,694
建 物 付 属 設 備	334,824	I 【株 主 資 本】	【 -16,463,363 】
構 築 物	3,412,026	1 資 本 金	[24,000,000]
機 械 装 置	4	2 利 益 剰 余 金	[-40,463,363]
車 両 運 搬 具	1,110,349	利 益 準 備 金	(4,240,000)
船 舶	649,080	そ の 他 利 益 剰 余 金	(-44,703,363)
什 器 器 具 備 品	2,171,103	繰 越 利 益 剰 余 金	-44,703,363
土 地	84,748,678		
2 (無形固定資産)	(2,281,433)		
電 話 加 入 権	1,023,905		
借 地 権	1,257,528		
3 (投資その他の資産)	(7,500,000)		
温 泉 利 用 権	7,500,000		
		純 資 産 合 計	-16,463,363
資 産 合 計	135,948,331	負 債 ・ 純 資 産 合 計	135,948,331

損益計算書

自 平成29年3月 1日
至 平成30年2月28日

くま川下り株式会社

科 目	金 額	
(経常損益の部)		円
I【営業損益】		
1 (純売上高)		
船 賃 収 入	77,227,622	
国 民 宿 舎 収 入	2,156,276	
売 店 売 上	5,827,608	
レ ス ト ラ ン 収 入	10,847,467	
そ の 他 収 入	23,488,747	
値 引 き	△ 895,500	118,652,220
2 (売上原価)		
期 首 棚 卸 高	760,264	
売 店 仕 入	4,168,248	
当 期 製 造 原 価	63,730,083	
期 末 棚 卸 高	△ 636,244	68,022,351
売 上 総 利 益		50,629,869
3 (販売費及び一般管理費)		50,401,537
営 業 利 益		228,332
II【営業外損益】		
1 (営業外収益)		
受 取 利 息	60	
写 真 取 扱 手 数 料	1,601,575	
雑 収 入	2,101,446	3,703,081
2 (営業外費用)		
支 払 利 息	2,475,971	
雑 損 失	317,103	2,793,074
経 常 利 益		1,138,339
(特別損益の部)		
III【特別利益】		
固 定 資 産 売 却 益	1,094,398	1,094,398
IV【特別損失】		
固 定 資 産 除 却 損	1,205,431	1,205,431
当 期 利 益		1,027,306

第 5 7 期

事 業 計 画 書

自 平成 3 0 年 3 月 1 日

至 平成 3 1 年 2 月 2 8 日

事業計画

新たな事業再生計画の策定に、昨年9月に人吉市、人吉市議会及び人吉温泉旅館組合様からご支援をいただき、今後、会社が進むべき方向について経営コンサルタントを交え、課題解決への道筋を軸に事業再生への協議を重ねてまいりました。今後、計画を進めてゆく上で、課題の中には前期からの懸案事項である

- 1 新造船の取得
- 2 船頭の確保及び永年勤続できる体制づくり
- 3 下流域のコース確保
- 4 くまがわ荘に代わる新たな収益事業の開発

以上も含まれております。一つ一つが難題ではありますが、経営安定化のため課題解決に向け、今回支援チームに参加くださる方々のお力を加え、さらに邁進したいと存じます。

営業面においては、ミドルコース中心の営業になってから取り組んでおります「球磨川下り」をスリルだけでは無く、伝統や文化を基調とした情緒や優雅さを強調し、船旅本来の魅力と櫓漕ぎ体験などの思い出として記憶に残るようなサービスに心がけ、販売促進に繋げてゆくことを徹底してゆきたいと存じます。

また、宣伝広告費の捻出も厳しい財務状況におきまして、テレビ番組の制作協力などによる放映や旅行雑誌の記事掲載の機会があれば積極的に協力してまいります。集客のためのセールス活動は引き続き行っていますが、限られた人数のスタッフで幅広い継続的なセールス活動は難しい現状において、しばらくはインターネットを介した情報発信の整備、船頭並びに職員の接客対応の向上など比較的費用のかからないことに徹します。

しかし、例外として一般のインバウンド観光客がさらに増加しておりますが、当社は受入体制がまだまだ整わず遅れておりますので早急に対応しなければなりません。また、営業全般において、熊本県観光連盟や人吉市、球磨村の観光協会との連携はもとより宿泊施設との連携等も欠かすことなく行います。

ラフティングに関しましては、引き続き熊本県教育旅行受入促進協議会の中で教育旅行の誘致に努めます。

現在、目の前に運転資金の調達他、数多くの課題を抱えておりますが、取引金融機関から借入金返済の元金を据え置いていただいたこの1年を充電

期間と捉え体力の回復を計りたいと存じます。その上で経営基盤をより強固なものにするために、川下り事業において古くから一番の課題であったシーズンオフ期間における収益の確保にも積極的に取り組み、安定した雇用環境を整備することで更なる増収に努め、観光を通して地域の発展に寄与し、球磨川下りを後世に残すべく精一杯がんばります。

依然、霧島連山・新燃岳の火山活動は活発なままで、長期化が観光へ及ぼす影響が懸念されますが、第57期の目標を川下り乗船客数32,600人、ラフティング利用客1,800人とし、全役職員一同力を合わせて精進して参ります。

各関係の皆様におかれましては、引き続き当社の発展のために一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

損益計画書

自 平成30年3月 1日
至 平成31年2月28日

くま川下り株式会社
(単位:千円)

科 目	金 額	
(経常損益の部)		千円
I【営業損益】		
1 (純売上高)		
船 賃 収 入	79,644	
売 店 売 上	6,000	
そ の 他 収 入	23,781	
値 引 き	△ 926	108,499
2 (売上原価)		
期 首 棚 卸 高	636	
売 店 仕 入	4,159	
当 期 製 造 原 価	55,819	
期 末 棚 卸 高	△ 636	59,978
売 上 総 利 益		48,521
3 (販売費及び一般管理費)		48,786
営 業 損 益		-265
II【営業外損益】		
1 (営業外収益)		
受 取 利 息	0	
写 真 取 扱 手 数 料	1,666	
雑 収 入	3,403	5,069
2 (営業外費用)		
支 払 利 息	2,465	
雑 損 失	2,000	4,465
経 常 利 益		339

